

作新学院の起源

作新学院は創立者・船田兵吾によって明治18(1885)年に始められた「下野英学校」が母体である。戦前の一時期には「私立作新館」と改称したときもあったが、長く「下野中学校」として地域の人々に愛されてきた。戦後の新学制が発足することに併せて、作新学院の名称を本格的に使うようになった。

「作新」とは、中国の古典『大学』の一節にある。世の中に学問を広める目的や心構えを記したものだが、「日に新たに、日々に新たに、また日に新たなれ。」「新たなる民を作(おこ)せ。」の後段、「作新民」から引用したものである。実はこの名称は開明的で名藩主と呼ばれた大関氏が、下野の国の北東に位置した黒羽藩の藩校に使用していた。その関係者が「作新」の名が藩校の廃止とともになくなるのは惜しいと思い、その名の存続を船田兵吾に託したのがきっかけであった。

明治維新後間もない栃木県で、文明開化が「陸(おか)蒸気」に乗ってやってこようという時代背景のもと、兵吾がこの言葉に心を揺り動かされたのは想像に難くない。また新しい時代を切り開こうとした同僚の共感を得て、建学の精神を表現する言葉として定着していったのである。

作新学院の建学の精神

前述の一節を読み下すと、「毎日毎日、世の中は新しいものが次々に生まれ、どんどん変化していく。これに対応して新しい知識や考え方を身につけた人材を送り出すことが学問の使命である。」といった意味になる。これは従来からの伝統的な解釈である。

しかし考えてみると、新しい知識を持っていても世の中がどんどん新しくなれば、さらに新しい知識を修得しなければならない。変化の激しい現代においてはなおさらである。したがって我々は「作新民」の解釈をさらに進めて、「作新民」の新民を、従来の読み方である「新たなる民」ではなく、自己を常に「新たにする民」と読み下すこととした。

「新たにする民」とは、自分の力で新しい知識や新しい問題解決の方法を吸収していく能力を身につけた人材であり、その人材はいつまでも世の中の役に立っていくはずである。平たく言えば、「自己教育」の実践であり、作新学院の教育方針のひとつである「自学自習」に通じる考え方である。

さらに、我々は、自己を常に新しくするという「新たにする民」を社会に送り出すことによって、社会全体を新しくしていくという重要な役割も視野に入れるべきである。そのためにも作新学院は常に外に向かって開かれていなければならない。我々こそが「社会の変革者である」との自覚と自負を持たなければならない。

作新学院大学女子短期大学部 幼児教育科の三つのポリシー

大学の教育理念

作新学院大学女子短期大学部は、作新学院設立の精神に則り、高潔な人格と確乎とした識見を養い、時代の要請に応え、実際の職業に即応し、自ら学び、自主的に自らを律して行動できる女性を育成することを目的とする。

本学では、幼稚園教諭・保育士・保育教諭等、幼児教育や保育に従事する者を保育者と呼称する。

幼児教育科の教育目的

幼児教育科は、幼児教育に関する専門の知識や技能、子どもに対する深い愛情を有する幼稚園教諭・保育士等の人材の養成を目的として、幼児教育に関する教育研究を行う。幼児教育科の教育研究上の目的は、以下のとおりとする。

- 1.保育者としてふさわしい資質を備え、常に時代の要請に自ら進んで対応できる能力を養う。
- 2.保育者に必要な保育の理論や実践的な技能を、自ら進んで学び高めようとする態度を養う。
- 3.保育者としてふさわしい豊かな個性や協調性を持ち、学問的な裏付けを持った実践を行うことができる能力を養う。

幼児教育科のディプロマ・ポリシー

作新学院大学女子短期大学部は、自ら学び、自主的に自らを律して行動できる女性を育成することを教育理念としている。その実現に向け以下の能力を身につけ、教養教育及び幼児教育に関する所定の単位を修得した場合には、卒業を認定し、短期大学士の学位を与える。

また、本学幼児教育科は、幼稚園教諭2種免許状と保育士資格の取得を積極的に支援する。

【知識・理解】

- 1.諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている。
- 2.幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している。

【技能】

- 3.情報や知識を複眼的、論理的に分析し、自分の意見を口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身につけている。
- 4.幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を修得している。
- 5.音楽・図画工作・体育の技術と表現を身につけ、乳幼児に指導できる。

【態度・志向性】

- 6.自学自習・自主自律を実践できる。
- 7.他者と協調・協働して行動できる。また、目標の実現のためにリーダーシップを発揮できる。
- 8.地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる。

【統合的な学習経験と創造的思考力】

- 9.理論（日々の学び）と実践（各種実習）を往還する省察と改善の態度を身に付けている。
- 10.積極的にボランティア活動に取り組むことができる。

幼児教育科のカリキュラム・ポリシー

- 1.作新学院大学女子短期大学部は、学科の教育上の目的を達成するために、必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成する。
- 2.作新学院大学女子短期大学部は、豊かな教養、深い専門的な知識、実践的な技能を身につけて地域社会の課題に取り組むことができる人材を育成するために、理論科目と実践科目を適切に配置する。
- 3.作新学院大学女子短期大学部は、ディプロマ・ポリシーに定めた卒業までに修得すべき知識・理解、技能、態度・志向性、統合的な学習経験と創造的思考力、等をシラバスの中に明示する。
- 4.幼児教育科は、幼児教育の専門家に求められる豊かな教養を培う教養科目群を開設する。
- 5.幼児教育科は、幼児教育の実践に必要な専門的知識・技能を培う専門科目群を開設する。
- 6.幼児教育科は、理論と実践を往還する実習科目群を開設する。
- 7.幼児教育科は、成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度を目安として採点する。
- 8.幼児教育科は、評価の客観性を担保するため、学習成果の評価の観点をシラバス中で、①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性と明示し、複層的な積み上げによる成績評価を行う。
- 9.幼児教育科は、自主性・主体性を引き出すために、学生と教員とのコミュニケーションを大切にした学生参加型の授業を行う。

幼児教育科のアドミッション・ポリシー

作新学院大学女子短期大学部幼児教育科は、以下のような人材を求めている。

【知識・技能】

- 1.幼児教育の専門的知識・技能を学ぶための基礎的学力のある人

【思考力・判断力・表現力】

- 2.幼児教育を学ぶのに必要なコミュニケーション能力のある人
- 3.保育者としての資質を身につけ、社会に貢献したいと考えている人

【主体性・協働性】

- 4.協調性があり、他者への思いやりのある人
- 5.建学の精神である「作新民」に共感して、自ら成長する意欲のある人
- 6.教育理念である「自学・自習、自主・自律」に共感して、主体的に学ぶ意欲のある人

大学入学までに身につけておくべき主な科目の内容

高等学校における基礎的な学力・実技能力、又は、得意分野に関する優れた学力・実績を身に付けていること。

【国語】

基礎的な国語の知識、特に現代文の確かな知識。口頭や文章でコミュニケーションをとるための思考力・表現力

【外国語（英語）】

基礎的な英語力

【音楽】

基礎的な音楽的表現力や技能

【美術】

基礎的な造形能力、創造力

【保健体育】

基本的な運動能力

【職業学科（専門高校）】

得意分野に関する優れた学力・実績

【総合学科】

得意分野に関する優れた学力・実績

入試区分ごとのアドミッション・ポリシー

幼児教育の専門的知識・技能を学ぶための基礎的学力、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を多様な方法で調べるため、以下の入試区分を設ける。

【学校推薦型選抜（一般推薦）】

1. 学業、人物ともに良好であり、高等学校全体の評定平均値が3.0以上の人
2. 出身高等学校長により推薦された方で本学専願者
3. 小論文、面接及び書類審査を行う。

【学校推薦型選抜（指定校推薦）】

1. 学業、人物ともに特に良好であり、高等学校全体の評定平均値が3.2以上の人
2. 出身高等学校長により特に推薦された方で本学専願者
3. 集団面接と書類審査を行う。

【総合型選抜】

1. 当該年度に高等学校を卒業見込の人
2. 高等学校卒業、または同程度の学力を持つ人
3. 課題レポート、面接及び書類審査を行う。

【社会人入試】

1. 高等学校卒業、または同程度の学力を持ち、社会人として就労経験を持つ人
2. 小論文と個人面接を行う。

【一般選抜】

1. 当該年度に高等学校卒業見込の人
2. 高等学校卒業、または同程度の学力を持つ人
3. 学力試験（国語（現代文）・英語）、集団面接及び書類審査を行う。

【特色選抜入試】

1. 専門高校から進学を希望する人
2. 高等学校や大学の中退等で再チャレンジを志す人
3. 学び直しや新しい分野の学修をしたい社会人
4. 地域に貢献したい意欲を有する人
5. 科学や芸術などの特定の分野で卓越した能力を磨いてきた人
6. 課題レポート、面接及び書類審査を行う。

学生生活支援方針

幼児教育科では、学生本位の支援体制を構築し、学習と学生生活全般に関して、教職員が連携して支援する。

1. クラス担任制を設け、入学から卒業まで同一の担任が学習から学生生活までの支援を行う。
2. 学生委員とキャンパスライフ支援室を中心に、健康管理からメンタルケアまで、きめ細やかな支援を行う。
3. サークル活動やボランティア活動を重視し、積極的な課外活動支援を行う。
4. 校友会が中心となって企画する学生の自主的な行事を積極的に支援する。

幼児教育科のアセスメント・ポリシー

作新学院大学女子短期大学部では、幼児教育科の三つのポリシー（ディプロマ・カリキュラム・アドミッション）に基づき、機関レベル・教育課程レベル・科目レベルの3段階で学修成果を査定する方法を定めている。

1. 機関レベル（作新学院大学女子短期大学部）のアセスメント・ポリシー
学生の志望進路（就職率、資格・免許を活用した進路への就業率など）から、機関レベルでの学修成果の達成状況を査定する。
2. 教育課程レベル（幼児教育科）のアセスメント・ポリシー
卒業要件達成状況、資格・免許の取得状況などから教育課程レベルでの学修成果の達成状況を査定する。
3. 科目レベル（各授業科目）のアセスメント・ポリシー
シラバスで提示された授業科目の学修目標に対する評価や授業評価アンケートの結果などから、科目レベルでの学修成果の達成状況を査定する。
4. 具体的な査定方法
具体的な査定方法は以下のとおりとする。

	入学前・入学時	在学中	卒業時・卒業後
	アドミッション・ポリシーを満たす人材かどうかの査定	カリキュラム・ポリシーに則って学修が進められているかどうかの査定	ディプロマ・ポリシーを満たす人材になったかどうかの査定
機関レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・入学試験 ・入学生アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> ・修得単位数 ・GPA ・各種学生アンケート（学修行動調査、満足度調査、学生生活アンケート、短期大学基準協会・短期大学生調査など） ・退学率、休学率 	<ul style="list-style-type: none"> ・学位授与数 ・免許・資格取得状況 ・就職率、進学率 ・専門就職率 ・卒業時アンケート調査 ・卒業生アンケート調査 ・就職先アンケート
教育課程レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・入学試験 ・入学生アンケート ・入学前学習（作短ドリル） 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・修得単位数 ・GPA ・資格取得 ・履修カルテ ・各種学生アンケート（学修行動調査、満足度調査、学生生活アンケート、短期大学基準協会・短期大学生調査など） ・退学率、休学率 ・実習園懇談会でのヒヤリング結果 	<ul style="list-style-type: none"> ・学位授与数 ・免許・資格取得状況 ・就職率、進学率 ・専門就職率 ・卒業時アンケート調査 ・卒業生アンケート調査 ・就職先アンケート
科目レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・プレテスト（ピアノ） ・入学前学習（作短ドリル） 	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価 ・履修カルテ ・学生授業評価アンケート ・実習園懇談会でのヒヤリング結果 	<ul style="list-style-type: none"> ・免許・資格取得状況 ・履修カルテ ・卒業時アンケート調査